



私達の泉川校区は、新居浜市の中心部に位置する人口約11,800人の住宅地域です。地域の中央には地域活動のシンボル国道11号バイパスがあります。泉川公民館は、平成15年度に現在の泉川小学校西隣に新築移転され、それを機に公民館活動が活性化し、現在は地域主導型公民館として老若男女が集う、地域活動の拠点となっています。



泉川小学校の「大好き泉川」看板

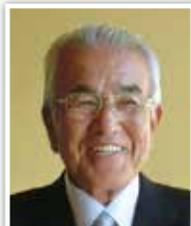
諸団体が緩やかに繋がり、自主的に生まれた組織が「泉川まちづくり協議会」です。地域福祉、安全安心、環境美化、健康づくり、子どもの支援に取組む5部会、各部会の学習を支える生涯学習部会、自治会ブロックで構成する総務部会で活動中です。

◆はじめに

特集 ①



泉川公民館 館長  
今西 光昭  
(新居浜市)



# 自分達のまちは、 自分達の力で！

◆「大好き泉川」が  
合言葉！

私達のまちづくりのモットーは「自分達のまちは、自分達の力で」です。他人様に求めるのではなく、まずは自分達に何ができるかを考え実践する姿勢を大切にしています。合言葉は「大好き泉川」、地域を愛し、幸福を実感できる地域にしたのです。この精神の下

◆地域づくりのねらい

私達の地域づくりの特徴を三点あげます。

第一は「自立の精神」です。平成16年災害の後、市の補助金が公募に変わり、泉川校区への補助金がなくなりまし。その際に

金の切れ目が縁の切れ目ではいけないという思いで「大好き泉川まちづくり寄付金制度」が生まれました。自治会費増額との議論の末、自治会長が地域の事業所を回り浄財を集めました。その浄財を各部会の予算に充当し、それぞれの企画プランにより分配する仕組みをつくりました。

第二は「子ども達を地域全体で育てよう」という姿勢です。平成17年度にスタートした「大好き泉川」子教室に毎週土曜日の午前中、泉川公民館は占拠されます。子どもの元気な声が響く公民館は心地よいものです。子ども達は卒業後も公民館に顔を出し、道で出会えば大声で挨拶してくれます。また、平成20年度からは学校支援地域本部に取組んでいます。その契機は、学校が荒れていたことでした。まずは環境を整えようという事で、鬱蒼とした樹木の剪定から入りましたが、今では読み聞かせや図書館支援などに拡大し、子ども達が健やかに育っていることを実感しています。

第三は「地域課題は自分達で解決する」という姿勢です。私は公民館活動に垣根はない、地域をよくしていこうという活動はすべて公民館活動だと考えています。泉川



小学校環境整備事業



小学校読み聞かせ

まちづくり協議会は地域の課題を解決しようとする組織なので、公民館はその総合支援事務局だと思っています。道路のアダプトプログラムや花植え、子どもの安全安心マップ、健康体操、防災訓練、通学自宿など、みんなの力が結集できるので、以前と比較すれば格段に課題解決に向けた取り組みが拡大深化してきたと感じています。

### ◆抱える課題

しかし、決してすべてが順風満帆ではありません。地域には既存の団体がたくさん存在します。それぞれが目的を持って活動しているという自負があります。ただ、同時に構成員の減少、後継者育成などの課題を抱えているのも事実です。そこでネットワーク構築と考えたのですが、なかなかお互いの役割分担を定めるのは難問です。未だに主導権の取り合いで衝突があります。また、新たな人材を獲得するために新規事業に積極的に取り組んでいます。若手の参加は少なく、スクラップアンドビルドができず、雪だるま式に事業拡大という悩みもあります。

### ◆過去の失敗とその克服の模様

まちづくり協議会の活動で結束が困難だった領域はタテ意識の強い福祉分野でした。自主防災や高齢者の見守り活動など新たな支援が求められる中で、どうすれば活動の充実が図られるかに頭を悩ましていました。しかし、自分達の側から他に支援を求めるのはプライドの壁が邪魔をし、地域福祉部会との融合は困難でした。

その契機になればと取組んでいるのが、今年度から三か年で実施予定の文部科学省委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」です。本市の介護保険料は全国でもベストテンに入っています。そこで「健康寿命の延伸」をテーマに地域をあげて取組みます。この中で慶應義塾大学

との連携もでき、アンケート調査や実証実験などを行います。この事業には大きな負担が伴うことも想定されますが、煩わしさを敢えて引き受けることがソーシャルキャピタルの蓄積につながると確信し、地域福祉の絆づくりにこの三年間じっくり取組むつもりです。

表1 健康寿命延伸のためのプログラム

順番	項目	内容
1	健康づくり	ウォーキング・食育・軽スポーツ
2	生きがいづくり	ボランティア活動・趣味教養活動・学校支援活動
3	居場所づくり	自治会館を活用した交流
4	話し相手づくり	傾聴ボランティア・年末の独居老人訪問

### ◆今後の展望

私はまちづくりは「駅伝」だと思っています。短距離走のようにダッシュしても息が切れ、マラソンのように一人で完走するものでもないと思います。自分達の世代では完成を見ないかもしれないけれど、次の世代に活動の「志」をきちんと引き継ぎ、最終的にゴールできれば何よりです。私達はこれからも「大好き泉川」のタスキを胸に掛け、自分達に与えられた区間をしっかりと駆けつけていきます。